

●竹蛇籠製作講習会第2日目、第3日目実行

第2日の18日は台風14号が九州に上陸し朝には和歌県有田市に再上陸しました。その影響で天候はすぐれず製作作業ができるかと気をもんでいました。しかし集合時間には、やる気満々の皆さんがお集まりになり、竹割りをしておこうとして、仕事にかかってくださいました。高橋式の竹割機が威力を発揮して、以前に鎌や鉋で分割していたころとは効率が全く違って、竹割機のスピードに作業員がついていくのが精一杯ということでした。またどんどん割れていくので、作業に来ていただいた皆さんは、息もつかないほどの作業の連続でした。それも係わってくださった方の人数が揃っていただいていたから、作業がはかどり、1本半分編めました。

第3日目は、台風一過でかなり良い作業日和でした。昨日割っておいた竹は、曲げやすく製作には好都合のしなり具合で、手ごろな物でした。昨年本気で取り組んでくださった太田さん大釜さんそして今年製作責任者となっていていただいている森島さんなどが本気になって取り組んでいただき、組み方の手順書を考え、初回に静岡県に出掛けて直接「原小組」さんから学んできた福井波恵さんも加わっているので、戸惑うことなく事が進みます。初参加の方にしてもベテランさんが適切に間違っているところを指摘してくれたので、難所を手早く修正して乗りきることができて、能率よく組み進みます。まさに学びあい、教えあう呼吸が合って、苦労少なく出来上がっていきます。

竹割りの人数も、蛇籠編みの製作も、ベテランが力を発揮し、新人も気楽に学びあえる関係が出来上がってきたようです。やはり5回の実践経験は素晴らしい製作力と経験から積み重ねた技術がうまくかみ合っているのだと思います。京都大学による試行の実践で里山の会のメンバーが素晴らしく成長してきた実力を発揮できるようになりました。これは伝統的技術の伝承が実践できている証だと言えるのではないのでしょうか。昨年は中聖牛組立てを自力で実行できました。今年は新人を交えて学んでいただきながら蛇籠が能率よく編み始められるなど格段の進歩が実践されてきています。



●2021年度京都府地域交響プロジェクト交付金申請実施 審査の結果交付金額決定されました

京都府から1,088,000円。同額が自治振興会から後日通知が来ます。申請した内容は①親子で遊ぼう学ぼう魚とり52万円②オオムラサキ観察会24万円③京都府子ども水辺交流発表会18万円④中聖牛5基設置124万円⑤里山農園を生かした自然学習14万円⑥地域説明会30万円⑦カヌー体験35万円の申請になっています。いずれもコロナウイルス感染防止、緊急事態宣言が発せられた厳しい中での実行となっていますのでかなり厳しく難しい企画です。社員会員の皆さんのご協力を頂けるよう強くお願いいたします。なおこの申請にあたっては有田勉理事が中心となって申請作業を担っていただきました。ここにそのご苦労に深く感謝いたします。また年間を通じて事業実施経過や予算執行の後始末、そして実行結果の報告書作成など年度末に向けての事務処理にもひとかたならないご苦労が伴います。積極的な記録成果物が必要となりますのでご協力を頂きますようこの場を借りてお願いいたします。

●竹蛇籠製作講習会第4日第5日実行25・26日

かなり成果が上がり製作が容易にできるようになって技術力がアップしたように見受けられます。一応9月（5日）と10月（10日）の土・日すべてで15日間と計画しております。27本の竹蛇籠製作が3基の中聖牛設置に必要になります。当初の計画では中聖牛5基分45本の竹蛇籠製作計画でしたが、少なくとも中聖牛3基竹蛇籠27本を製作し、2基18本は余裕が生じた段階で実施するという計画変更となっております。ですから竹蛇籠の製作は27本（昨年並み）で、18本はできる範囲で作り上げようとの計画になっていますので、ご了承ください。中聖牛製作設置については、3基の設置場所の検討中（シュミレーションの結果次第で最も効果の上がる場所）、になっております。設置日時は未定です。里山の会としては昨年通りの12月4・5日を希望しています。11月には国交省淀川河川事務所か受注を受けている木津川希少種生育調査管理業務のうち16000㎡の除草作業実施となりますので、10月中に竹蛇籠の製作を終わっておきたいと思っています。なお中聖牛の組立てはその間の11月中の都合の良い時期に行えればと計画しています。

●9月21日事故が発生

里山農園で軽ワゴン車の後ろ扉のガラスの1.3mくらいの高さに除草作業中の作業によって小石が飛び込んで窓ガラスが破損（修理費6万円）する事故が発生いたしました。物損事故で人身事故ではなくて不幸中の幸いとなり、里山の会が加入しているボランティア保険が適用されることになって、一件落着となりました。

近頃里山農園での活動に小さい子どもたちが参加してきてくれています。うれしいことで歓迎しています。また農業作業の経験の無い若いお母さんたちも多数おいでになって、活気に溢れてきています。新しい顔ぶれが増えることは非常にうれしいことです。

しかし、先日のように物損事故で済めばいいのですが、小さいお子さんが来ておられてのことだったらと想像すると大ごとだった、小石といっても高さ1.3mで飛距離5m以上も飛んだとなると最悪の場合は、大きな負傷も容易に想像できます。こういった事故にならなくて幸いだったと簡単に済ませるわけにはいかない出来事ととらえなくてはならない事だったのではないのでしょうか。

作業中の人の注意力 接近して駐車をした人の注意力等、そのほか考えられるだけの対策を見つけないければならない出来事だったと思います。飛んだ小石は高さ1・3mの高さで草刈り現場からは5m以上離れていたとのことです。よく注意をお願いします。特に小さいお子さんには目をかけてください。またこれくらいの作業なら単独でいだろうと考え一人作業の場合が多いように見えます。事故や身体異常の場合単独行動は危険ですから二人以上の行動を守ってください。万一の場合が大変です。近頃の農業従事者が減少しているので助けを求めても、助けに来てくれない場合が多いですから。

他山の石としてお互いに注意を払い、再発防止に努めましょう

●会誌51号原稿募集 文字数：手書きの場合2000文字数(こちらでパソコンに打ちこみます 募集期限厳守 (10月20日)

以下の原稿について募集しています

調査研究報告：身近での記録 広く知らせたい記事・写真などをお願いします

仲間の広場：自然の移ろいや、友人との会話で気づかされたこと、孫の成長や家族の何気ない行動に感激したこと、また印象に残った写真、思い出の記念写真を送ってください

感想文：里山の会のイベントで気づいたこと、感じた思い、改善すべきことや希望する催しやこうあってほしいこと等、大いに賑わしてください。投稿をお待ちしています。